

聞き手の心をつかむ

スピーチを！

—六年(下)「わたしの六年間」の指導から—

川崎市立高津小学校教諭

穂苅 ほがり ひと美 み

一「総合的な学習の時間」を合わせて

六年生は、卒業アルバムや記念文集作り、卒業式と行事がたくさんあります。まずまず国語の時間数が少なくなるので、それぞれの学習を関連させ、学年、学期単位の見通しをもって指導計画を組み立てていくことが大切です。その中で、基礎・基本の力をしっかりつけていく必要があると考えます。

そこで、総合的な学習の時間も含め、「わが町、わが母校そしてわたし」(約五十時間)という大きな単元を設定しました。そこでは、十二年間の自分を振り返り、自分を見つめ直し、これからの自分を考え、思いをつづり、そこから、卒業アルバム、「はばたきの会」、送る会、卒業式にと、学習を展開していきます。そのうち、国語

科の学習では、「書くこと」(十一丁三時間)と「話すこと・聞くこと」(七時間)を関連させて、その中に「わたしの六年間」を位置づけました。

二「わたしの六年間」の指導計画

この教材で身につけたい力は次のことです。

▼小学校の思い出を題材に、六年生の自分を聞き手に印象づけるように、組み立てなどを工夫してスピーチする。

▼目的や場に応じた適切な言葉遣いで、声の調子など効果的な発表のしかたを工夫してスピーチをする。

一学期から、十二年間を振り返って、それぞれの思いを書きたててきました(次ページ題材一覧表)。その中から、スピーチにふさわしいものを一つ選び、スピーチ原稿を作ります。すでに書かれている原稿から選んでスピーチ原稿にするので、話すこと・聞くことの学習にじっくり取り組むことができます。

三学期には、これを「はばたきの会」(本校では謝恩会に代わるもの)で発表します。最後は、卒業式での「呼びかけ」の言葉になります。

三 学習の窓「聞き手の心をつかむスピーチ」を活用
1 「はばたきの会」に目標を定めて

十二才の私 今を生きる

自分を見つめて自分を書く！

こんなページがあったらいいね (題材一覧表)

- ① 鏡の中の自分
- ② 母のぬくもり
- ③ ○○○さんと私がいつかになるとき
- ④ 私はどんな子？(友達スケッチ)
- ⑤ 今、夢中になっていること
- ⑥ こわいもの、好きなもの、さびしいもの、落ち着くもの、色は、音は、
- ⑦ 捨てられない、このおもちゃ
- ⑧ 手のひらは語る(手形を押して)
- ⑨ 思い切った自慢しちゃうぞ
- ⑩ の作り方
- ⑪ ○○○の方法
- ⑫ 私のお気に入りの服・日用品など
- ⑬ この本との出会い
- ⑭ 私の口ぐせ(性格を表す)
- ⑮ 一枚の写真をめくって
- ⑯ 私の朝(四コマ漫画など)
- ⑰ 口ずさむメロデー(好きな歌)
- ⑱ 先生との出会い ―あの日の時―
- ⑲ 通学路の風景
- ⑳ ある日の教室で
- ㉑ 心に残った学習
- ㉒ 高津小の四季
- ㉓ 休み時間に行く場所そこは
- ㉔ 教室の真ん中に立つてみた
- ㉕ 教室の窓から見えるもの
- ㉖ 私が、頑張ったと思うもの
- ㉗ この言葉にこだわってみたい
- ㉘ 生きものが教えてくれたこと
- ㉙ 「もしも」の世界
- ㉚ 目にした風景(八ヶ岳・鎌倉・日光・都内めぐり)
- ㉛ 友とのひととき(会話だけで書いていく方法もあります)
- ㉜ ○○○と私(野球・サッカー・ミニバス・趣味など)
- ㉝ 私を変えた出来事
- ㉞ 私の作品
- ㉟ 私の名前(由来なども)

まだまだあるよ！○○○

- * 一つの題材で、何編書いても良いですよ。
- * 絵や写真、他にもはれるものがあつたらはってみてもおもしろいですね。
- * 用紙は縦に使うか、横に使うか決めておきましょう。製本するときに困りません。
- * 様々な用紙を使って、いろいろな書き方をしてみましょう。(もちろん全て同じ用紙でも構いません)
- * どんな自分が見えてきたでしょうか。

▼対象 保護者と六年生全員、お世話になった先生方や地域の方々

▼目的 卒業にあたって、十二年間の自分の成長を見ていただくとともに、感謝の思いを伝える。支えてくれた友達への思いも伝える場としたい。

▼内容 書く学習で書きたててきた「自分の十二年間」の中で、いちばん伝えたい題材を選ぶ。

▼方法 一人持ち時間は三分以内、口頭で発表。

「はばたきの会」と卒業式の様子を合わせてビデオに撮り、記念のビデオアルバムとする予定です。本番に向けてはもろろのこと、ビデオにも残ると思うと、子どもたちは緊張して取り組みます。話す力・聞く力をつけるこれほどよい場はありません。

2 オリジナル「学習の窓」を作る

書く学習の中で、自分を見つめる学習を重ねてきたことで、「話したい内容」が幾つか出てきています。その中から、スピーチ内容を決定します。

このとき、教科書の「学習の窓」の項目について、具体的にどんなことが考えられるか話し合い、クラスのオリジナル「学習の窓」を作りました。

・最も自分らしさが表れると思う話題を選ぶ。
・自分を変えた出来事



- ・自然な身ぶり、手ぶりを交える。
- ・目で見えるものとして、「物」を使うか。
- ・身ぶり手ぶりを使うか。
- ・声の調子を考える。
- ・原稿内容に合わせて、一本調子にならないようにするにはどうするか。
- ・ゆっくり話すところ。
- ・低い声で。・間をあげる。など
- ・発表によっては、劇や音楽なども入れる。
- ・音楽を入れる。・寸劇を入れる。
- ・服装はどうするか。
- ・発表に合わせた具体的な物を持つてくる。など
- ・オリジナル「学習の窓」を貼り出しておき、あとの学習にも役立てます。
- 3 スピーチ原稿を書く
- オリジナル「学習の窓」を見ながら、スピーチ原稿をワークシートに書き込みます。
- ワークシートの上欄には、「構成」の項目を書き、項目に合わせた文を一文ずつ書いていきます。下欄には、「効果的な発表のしかた」を書き込みます。
- 書く学習でも、周りの様子なども含めて、五感で感じ取ったことを自分の頭の中のテレビ画面に映るように表

- ・成長した姿が分かるような話題
- ・未来に向けての展望
- ・相手に最も伝えたいことは何なのか。
- ・過去の自分、今の自分、未来の自分など時間的な経過も意識させます。
- ・どうしてその話題を選んだかが聞き手に分かるように、組み立て（構成）を考える。
- スピーチ原稿は、原稿用紙二枚程度です。話の構成を考え、項目を挙げていきます。（ワークシートを活用）
- ・話の初め（書き出し）
- ・聞き手の心をつかむために、結論から先に言うのか、きっかけとなった出来事を言うのか。など
- ・話の内容（中）
- ・何が自分を変えたのか。
- ・何がいちばん伝えたいことなのか。
- ・事実と自分の考えをはっきり分ける。
- ・そのときの周りの様子。など
- ・話の終わり（終わりに）
- ・今の自分とどうかわっているのか。
- ・未来への展望などを加えるなど、締めくくりのアイデア。
- ・効果的な発表のしかた

- 現しようと指導してきたので、スピーチにするときも、どこが最も言いたいところなのかイメージしやすかったようです。
- 4 練習しよう
- 個人練習をし、次に四人グループを作り、お互いにアドバイスをし合います。
- 話の組み立てはよいか、伝えたいことが分かりやすいかなど、オリジナル「学習の窓」に沿って、お互いに評価し合い、発表会に向けて、よりよい方法をアドバイスします。（アドバイスカードなどの活用）
- クラス発表会では、話し手の意図を考えながら内容を聞き取り、相互評価します。子どもたちはここでヒントをもらい、さらにスピーチが熟達していきます。
- 5 「はばたきの会」に向けて
- 「はばたきの会」に向けて、個人でさらに練習します。本番の場所、体育館でさらに発表の練習をし、最後のアドバイスをします。学年のみんなの前で、保護者の前で、先生方の前で、最高の晴れ舞台です。
- 自分のスピーチや友達のスピーチで心に残ったことをまとめます。友達には、カードに感想を書いて渡します。また、保護者の方にも感想を書いていただき、中学に向けての励ましにもしていきたいと思えます。